

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(3月13日～3月19日)

2023年3月29日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領のイラン公式訪問(3月12日、13日)
- ベラルーシ・露両国首脳電話会談(3月17日)
- 親政権政党「ベラヤ・ルーシ」の設立(3月18日)

【ルカシェンコ大統領動静】

- イラン公式訪問(3月12日、13日)

ライースィ・イラン大統領との会談

(1)ルカシェンコ大統領の発言

- ・各国民にはそれぞれ、独自の文化・生活様式・教育・宗教等に根ざす価値観があり、そうした価値観を尊重すべきであるということを、米国は忘れてしまっている。まさにこの点にこそ、平和共存の基本があり、このことを忘れてしまうと戦争が始まる。
- ・今次訪問の総額は、我々が合意事項を全て実施する場合、約1億ドル。制裁はチャンスでもあり、この時期を逃さないことが極めて重要。
- ・二国間貿易のさらなる増加とともに、合意事項を全て、遅滞なく実施することが重要。科学技術面での協力に特に注意を払うべきであり、既存の事項を将来的には商業プロジェクトへと変えなければならない。
- ・ベラルーシとイランが、公正で多極的な世界という理念に付き従っているということが重要。

(2)ライースィ・イラン大統領の発言

- ・イランは脅迫や制裁にも関わらず、高度な成果を達成し、制裁をチャンスに変えることができた。この経験を友好国ベラルーシと共有する用意あり。
- ・両国の意思は、例外なくあらゆる分野において関係を進展させるということにある。
- ・イランは、国際機関、特に上海協力機構(SCO)やユーラシア経済同盟(EAEU)におけるベラルーシとの関係にも関心あり。

(3)成果文書等

- ・2023年から2026年にかけてのベラルーシとイランの間の包括的な協力のロードマップを含め、8本の成果文書に署名。

その他の会談

- ・ルカシェンコ大統領はモフベル第一副大統領との会談において、全ての産業分野でイランと協力する用意があることを表明し、ベラルーシに合併企業を設立して全世界と貿易することを提案。また、本年中に合意事項を全て実現できるよう申し入れ。
- ・ルカシェンコ大統領とガリバーフ・イラン国会議長は、両国を取り巻く地域・国際情勢を踏まえ、両国の関係進展に向けて機が熟していること、合意事項全ての実施が重要であることを互いに表明。
- ・ルカシェンコ大統領とハメネイ・イラン最高指導者は、両国関係の潜在力を、合意事項を実施するため、両国が有する精神や意思によって大幅に引き上げる必要があることを強調。
- ・アヴラメンコ運輸・交通大臣は、ベラルーシがイラン及びロシアとともに、国際南北輸送回廊(INSTC)の鉄道建設に参加すること、3月26日からテヘラン・ミンスク直行便が週2便運航予定であることにつき述べた。
(3月13日 大統領府、国営ベルタ通信)

●教皇フランシスコ在位10年に寄せた祝電

- ・多くの点でベラルーシとバチカンの見方は重なっている。第一に、ウクライナにおける平和を誠実に追い求め、それを確立するため、政治指導者も一般市民も、可能なあらゆる努力を払う必要があるという点。第二に、グローバルな政治における既存の関係をしっかり見直す必要があるという点。
- ・全世界は兄弟関係であり、それは赦し、一致、和解に基づくものであり、圧迫、吸収、自らの見方の押し付けによるものではないという教皇猊下の見方に賛同。
- ・我々は既に何年も西側に対し、ベラルーシに圧力を

かけても成果などなく、相互への敬意・伝統・価値観・各国の国益に基づく対話こそ重要であると説明。

(3月13日 大統領府)

●憲法記念日に寄せたメッセージ

ルカシェンコ大統領のメッセージ

・ベラルーシの憲法は、ベラルーシ人が何百年にもわたり、自らの発展の路線を自分で決め、独立した国で暮らし、自らの勤労によって社会の福祉を確保するという志向を反映したもの。

・国にとって激動の時期に改正された憲法は、平和愛好、社会的公正、過去の功績に対する敬意、ベラルーシ国民の伝統的価値の継承といった基本的な原則を守り、社会の統一、社会・政治的安定性、全ての権力機構の調和のとれた効率的な業務の強化のための信頼できる基盤となった。

チハノフスカヤ氏のメッセージ

・民主勢力は、すでに新しいベラルーシの憲法はかくあるべきというビジョンを持っている。我々の課題は憲法を再び意義あるものにすること。

・独裁からの保護となる憲法を準備することは、人権や自由の保証に繋がり、民主的な抑えや重しとなる。

(3月15日 大統領府、チハノフスカヤ氏公式サイト)

●シェイマン元大統領官房長と会談

・大統領は、シェイマン氏は引退したとはいえ、アフリカ特使としての職務は残っている旨指摘。

・大統領は、アフリカ向けの保健分野での支援や、ムナンガグワ・ジンバブエ大統領夫人の来訪等の共同事業の進捗状況、ジンバブエ以外のアフリカ諸国へのベラルーシ製機材の納入等の状況につき下問。

(3月16日 大統領府)

●ベラルーシ・露両国首脳電話会談

主な議題は以下のとおり。

- ・輸入代替の分野における共同の取り組み
- ・国際南北輸送回廊(INSTC)の建設の見通し
- ・マイクロエレクトロニクスの分野における協力
- ・両国共同の人工衛星の開発
- ・軍産複合体の分野における共同での取り組み

・その他の国際的問題、来るベラルーシ・露連合国家最高評議会の議題

(3月17日 大統領府)

【外交】

●欧州議会によるベラルーシに関する新たな決議

・3月15日、欧州議会は、ルカシェンコ体制にさらに制裁を課すとともに、市民社会を支援するよう呼びかける決議を採択。

・グラス外務報道官は、一方的な制裁は違法で対象国の国民の基本的権利を侵害しており、相互に尊重しあう対話を避けるものであり、独立国に対して相変わらず強制以外の措置をとろうとしない欧州機構の政策は行き詰まっていると非難。

・代表者院(下院)は欧州議会の決議に対し、主権を有する独立国家の内政に対する許しがたい干渉であり、合法的な政権を転覆させることを目的に憲法に反して活動を行うベラルーシ国内外の破壊的な勢力を支援する呼びかけも容認できないとの声明を発表。

(3月15日 欧州議会、外務省、代表者院(下院)、「ゼルカロ(鏡)」)

●アレニク外務大臣はインドの製薬会社「CIPLA」代表と会談

・医薬品、原材料の供給、ベラルーシの医薬品部門の近代化のための産業設備、科学技術設備の分野における共同プロジェクトの実施を含む、貿易・経済及び投資協力の発展の可能性につき協議。

(3月16日 外務省)

【内政】

●独立系メディア「TUT.BY(「ゼルカロ(鏡)」の前身)」幹部に対する判決

・ゾロトヴァ氏、チェキナ氏に対し、12年の自由剥奪刑(一般刑務所)の判決。

・2021年5月18日、治安関係者がTUT.BYの事務所や職員の自宅に立ち入り、15名を拘束。ゾロトヴァ氏とチェキナ氏は現在も拘留中で、国家保安委員会(KGB)の「テロ行為関係者」リストに含まれている。

(3月17日 「ゼルカロ(鏡)」)

●親政権政党「ベラヤ・ルーシ」の設立

・3月18日、ミンスクで結党大会に約1,000人が結集。同党は、ベラルーシ初代大統領アレクサンドル・ルカシェンコの支持者の党である旨表明された。

・定款と綱領が採択された。党首には、共和国社会团体「ベラヤ・ルーシ」の代表であったオレグ・ロマノフ氏が選出され、最高政治評議会には、グリゴリー・アザリョノク国営「首都テレビ(STV)」司会者も名を連ねる。
(3月18日 国営ベルタ通信、「ゼルカロ(鏡)」)

●3月17日現在の政治犯の数は1,460人

(3月17日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【治安・軍事】

●ストックホルム国際平和研究所(SIPRI)による、ベラルーシ兵器の輸出入に関するデータ

(1)ベラルーシの兵器の調達先

ロシア 約100%、中国 約0.1%

(2)ベラルーシの兵器の主な輸出先

セルビア 約33%、ベトナム 約25%、ウガンダ約14%

(3)ベラルーシの兵器の輸出の2018年～2022年の実績は、2013年～2017年に比べ、▲37%

(3月13日 スtockホルム国際平和研究所(SIPRI))

●国防省は3月中に、兵役義務のある者の召集を計画に基づき行う旨発表。

(3月14日 国防省)

●周辺国におけるベラルーシ製たばこ密輸の摘発

・露スモレンスク州税関は、「NZ」、「Minsk」、「CREDO」、「DOVE」(全てベラルーシ国営「グロドノたばこ工場『ニョーマン』」製)を合計180万箱、200万ロシア・ルーブル(約2億6,500万ドル)相当を摘発。

・3月15日、ラトビア国境警備隊は、西ドヴィナ川を漂流していた物体から、「NZ」15万箱を押収。

(3月15日 露連邦税関庁、18日「ゼルカロ(鏡)」)

●ブレストで、妻子も巻き込んでメフェドラム52kgをベラルーシに持ち込もうとした外国人男性が逮捕

(3月15日 検察庁、「ゼルカロ(鏡)」)

●戦時の徴兵年齢を65歳までに引き上げ

ブグク・ミンスク市裁判所判事は要旨以下を述べた。

・法律「軍務及び兵役について」によれば、徴兵対象は18歳から27歳の男子だが、戦時には、上限年齢が65歳まで引き上げられ、予備役も65歳までとなる。
(3月16日 ベルタ通信)

●ポーランドにおける、ベラルーシ人3人とウクライナ人6人で構成されるスパイ集団の摘発

・反体制派「サイバーパルチザン」によれば、ベラルーシ人のうちの1人は国家保安委員会(KGB)の関係者。
・ポーランドの特務機関によれば、同スパイ集団はロシアの特務機関の指示により、ウクライナに供給される武器の輸送の記録等を実施。

・カミンスキ・ポーランド内務大臣は、被疑者らが機材、武器、支援物資等のウクライナへの輸送を麻痺させるための破壊工作の準備をしていた旨指摘。

(3月16日、17日「ゼルカロ(鏡)」)

●グロドノ市における治安部隊の出動

・3月19日、国家保安委員会(KGB)は、グロドノ市内で、テロ容疑で拘束しようとした外国人が抵抗したため、無力化したと発表。

・独立系メディア「我らの家(ナシヤ・ニヴァ)」によれば、同日、グロドノ市内のカラニク・グロドノ州執行委員会委員長(州知事)邸宅のある地域に、特殊部隊や爆発物探知犬が来訪して活動。

(3月19日 国家保安委員会(KGB)、「我らの家(ナシヤ・ニヴァ)」)

●内務省は本年1月以降、戦闘に参加するためにウクライナへの入国を試みたベラルーシ人11名を拘束

(3月19日 国営「首都テレビ(STV)」)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(3月13日～3月19日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも71人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも107人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも509人を阻止。

(3月14日～3月20日 BPN)

【経済】

●ケニア政府によるベラルーシ機材調達計画

・ケニアのメディア「The Weekly Review」によれば、ケニア政府は約 2.4 億ドル相当のベラルーシ製農業機材等をベラルーシからの融資で調達予定。

・仲介予定の企業「AFTRADE DMCC」は、ルカシエンコ大統領の側近シェイマン元大統領官房長に近いジングマン氏が所有。

・ジングマン氏は、アフリカ向けにベラルーシ製品を販売。ジンバブエでの金の採掘等を手がける一方、2021 年にはコンゴ民主共和国で、カビラ元同国大統領への武器販売の容疑で拘束されている。

(3 月 13 日 Reform.by)

●イランからベラルーシへの乗用車の販売契約

・ファーテミ・アミン・イラン商業・工業・鉱山大臣によれば、今後 3 年間で 45,000 台が輸出される

・契約金額は 4 億 5000 万ドル。

・ベラルーシでは、イランの乗用車メーカー「Saipa」の自動車の販売に向け、認証が進められている。

(3 月 16 日 「ゼルカロ(鏡)」)

●リトアニアの貨物鉄道会社「LTG Cargo」は、制裁回避への関与の疑いのあるクライペダ港の企業「Biriu kroviniu Terminalas (BKT)」との契約を停止

(3 月 17 日 BPN)

【抗議勢力の動き】

●「調整評議会」議長に政治学者のアンドレイ・エゴロフ氏が選出

エゴロフ氏は、当面必要なこととして以下を指摘。

(1)「調整評議会」が様々な民主勢力の共通の場となることができるため、筋の通った公開での話し合いを通じて共同の決定を下せるようにする。

(2)政治犯等の主要な問題で、たとえ戦術的にでも統一の立場を形成する。

(3)ウクライナとの連携。民主勢力はウクライナとの連携なしに、ロシア軍の撤退等で何かを行うことは極めて困難。

(3 月 13 日 「ゼルカロ(鏡)」、BPN)

【統計等】

●がんの増加傾向

	2022 年の 罹患件数	前年比
モギリョフ州	5,395 件	113.8%
ミンスク州	6,830 件	107.0%
グロドノ州	5,407 件	115.1%
ブレスト州	—	111.0%

・ミンスク州保険総局は、件数の増加には、医師ががんにより注意深くなったこと、診断の改善、COVID-19 の感染が落ち着いたことに伴う医療機関の機能回復も関係している旨指摘。同総局によれば、最も多いがんは皮膚がん、次いで前立腺がん、大腸がん。

(3 月 13 日 医療専門紙「メジツィンスキー・ヴェスニク (医療新報)」、「ゼルカロ(鏡)」)

●ウクライナへの侵略戦争から 1 年間でイスラエルへ移住したベラルーシ国民の数

・10,700 人が移住。うち 2,300 人が帰還者。

・2023 年 2 月 22 日時点で、イスラエルには 2,900 人のベラルーシ国民が在留、うち 1,800 人が帰還者、1,100 人が観光客として訪れたベラルーシ人。

(3 月 16 日 「ゼルカロ(鏡)」)

【その他】

●「ベラルーシにおける拷問に関する国際調査委員会」による報告書の公開

・ベラルーシの 5 つの人権団体が、2020 年 8 月 9 日の大統領選挙投票日直後 5 日間における、ミンスク市内での拘束や、同市内オクレスチナ拘置所での劣悪な拘留・拷問の状況につき、被害者 101 人による証言等に基づきとりまとめ。

(3 月 15 日 「ベラルーシにおける拷問に関する国際調査委員会」、BPN、「ゼルカロ(鏡)」)

(了)